混在

～山谷回遊録～

K04030 小根澤 一典

ホームレスとの関係

都市部では多く見受けられるホームレスの人々。彼らは、風景の一部として人々の目に映っているだろう。彼らと私たち、一定のバランスを保って接している。そんな彼らと混ざる空間があったら、何が見えるだろう。

敷地：東京都南千住駅南側広域。
山谷地域(南千住、日本堤、清川、東浅草)

山谷地区の歴史

明治初期の頃は吉原遊郭、街道筋、浅草寺界隈を除けば田園が広がる農村地帯であった。1932年に関東大震災が起こり、山谷周辺の下層社会の人々は南千住、三ノ輪、三河島、日暮里へと拡大していった。スラムとしての色が強く出された頃であるといえる。震災後は現在の元となる木賃宿街として復活し、昭和初期に区画整理がなされ、スラムの要素は消えていった。この頃から日雇い労働者の街としての特色が出始めた時期でもある。

太平洋戦争経て、山谷は簡易宿泊所＝ドヤが多くできて、ドヤ街として有名になる。また日本有数の寄せ場として復興を遂げていった。多くの日雇い労働者で賑わい、彼らが地域でその金を使うことで地域が潤っていた。簡易宿泊所、地域住民、商店街、日雇い労働者、商売人などの人々が微妙なバランスを保ちながら共存していた。

山谷地区の現状

日雇い労働市場は衰退し、簡易宿泊所の宿泊者は減少しており、現在はピーク時の3分の1以下となっている。また、宿泊者の高齢化が進行しており、60歳以上の人の割合は54.6%、宿泊者の44%が生活保護を受けている状況である。過去の絶妙なバランスが崩れ、地域衰退の悪循環になり始めている。

そのほかに近年、新しい利用者も増えている。
外国人旅行者や地方から出張にきた会社員、近隣イベントなどを見にきた人々が簡易宿泊所の安さと山谷からの都心へのアクセスなどに目をつけて、利用することが見られるようになったのである。

山谷地域の問題

①路上生活者の増加
現在の山谷及びその周辺の路上生活者は約2000人程度いるとみられている。
②居住人口の減少と高齢化
③行政の都市開発の重点が、副都心化を目指す上野再開発、常磐新線の浅草開発、南千住・汐入地区に置かれている。

CONCEPT

ホームレス、ネットカフェ難民。
彼らは、路上で生活していた経験がある。彼らは、好んで一人でいる。彼らにはそれぞれの理由がある。
地域住人の高齢化、人口減少。
このような中、人との関係性はどのようになるのだろうか。
新しい訪問者、彼らは何を運んでくるだろう

この地区にいる人々、ホームレス、住人、旅行者などそれぞれ、一定の距離を持って存在している。

このバランスが壊れ、それぞれが混ざり合う空間があってもいいだろう。

例えば、川には色々なモノが混ざって、流れ、淀み、また流れていく。

人もまた、混ざり、留まり、流れていく・・・

SITE PLAN 1:2000

指導教員 伊藤 洋子 教授

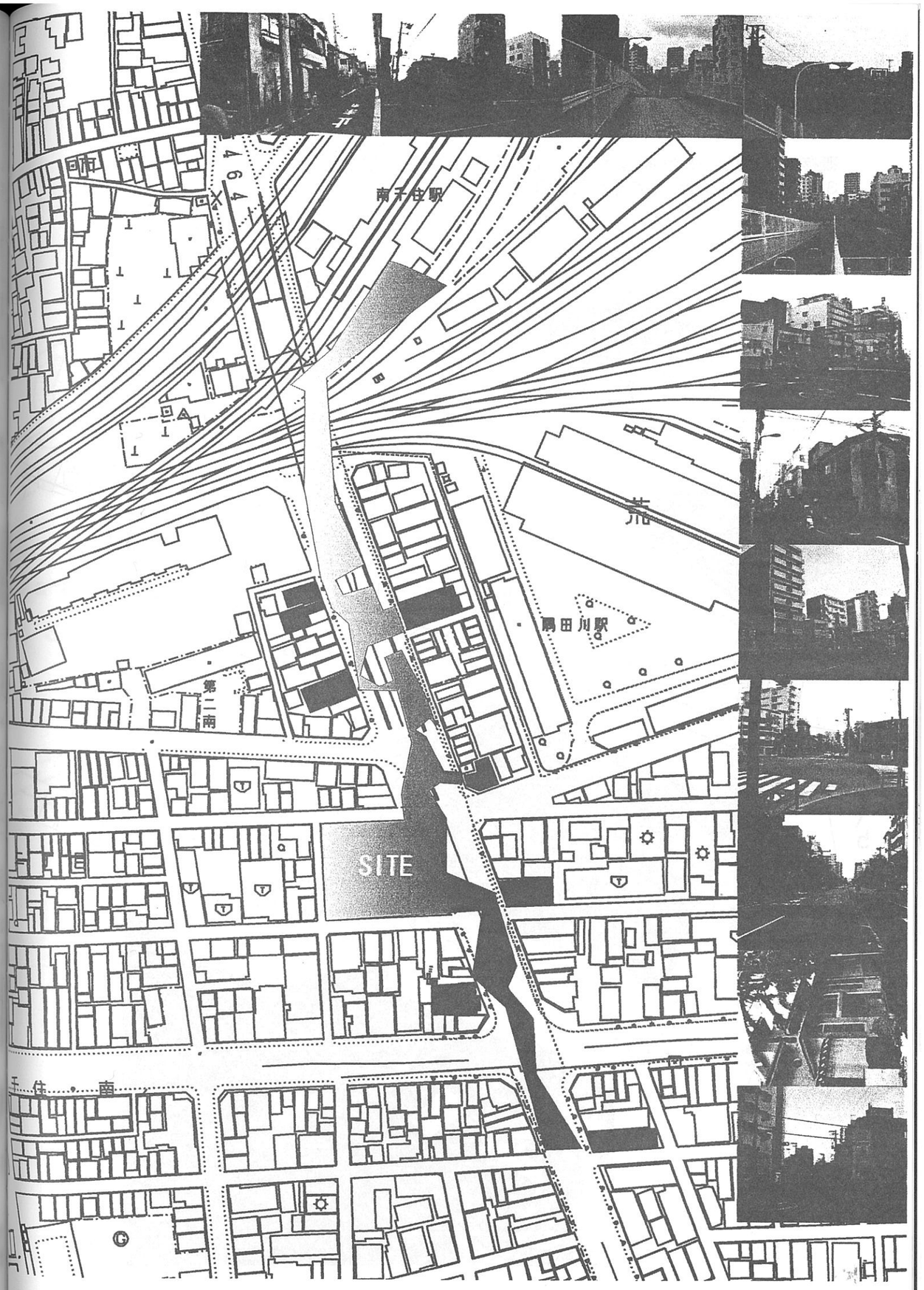


DIAGRAM －淀み－

既存のヴォリュームの高さを継承し、その流れで淀みを形成する.
3層の広場を生み出し、内部へ入っていく

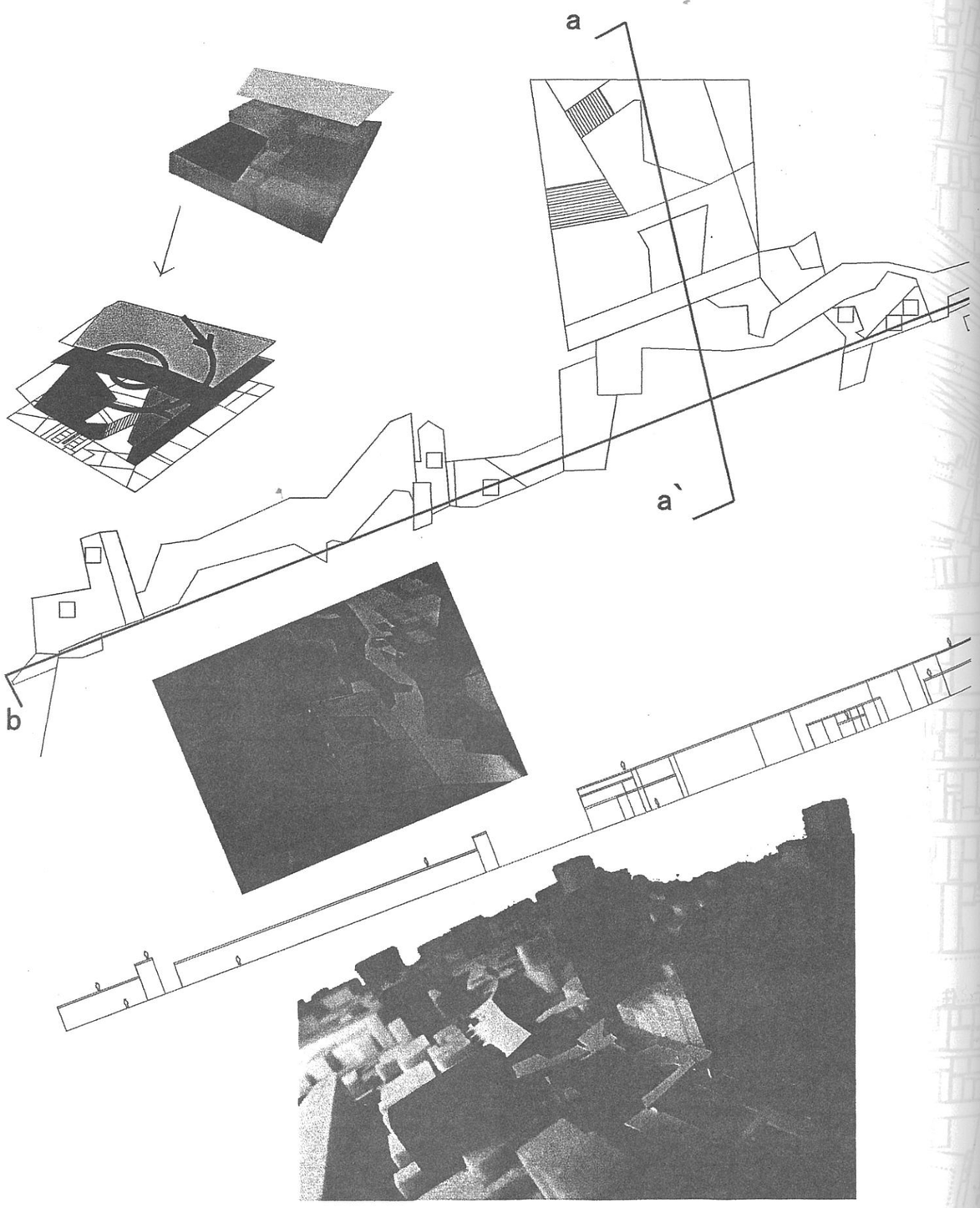
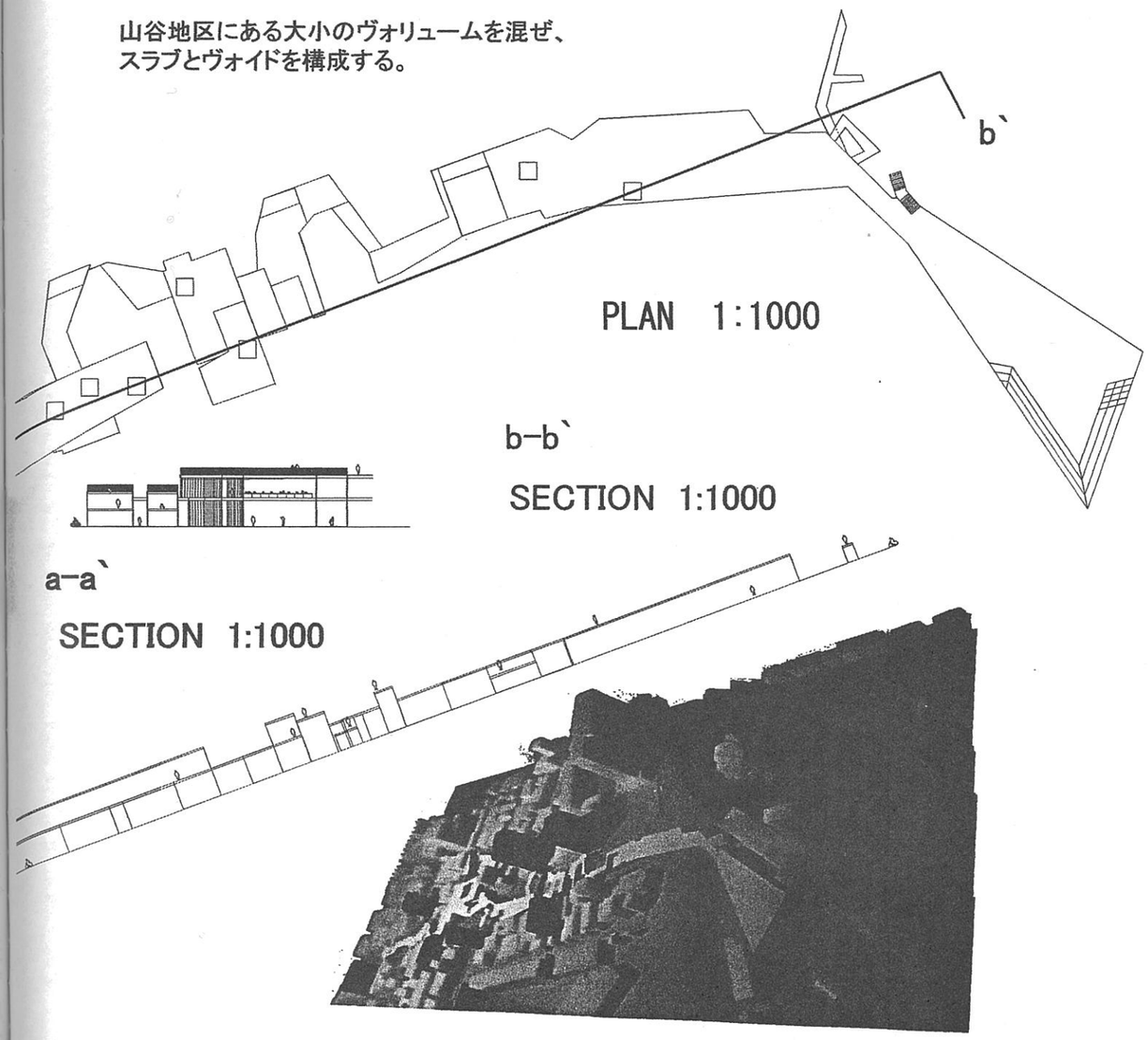


DIAGRAM －流れ－

山谷地区にある大小のヴォリュームを混ぜ、
スラブとヴォイドを構成する。



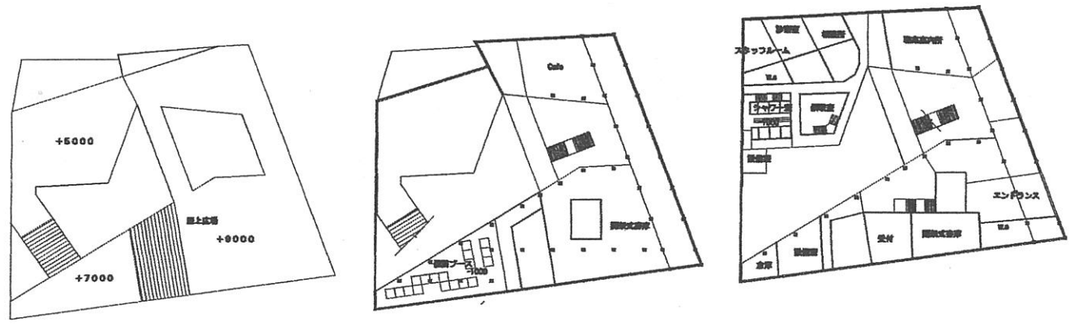
PLAN 1:1000

b-b`

SECTION 1:1000

a-a`

SECTION 1:1000



3F PLAN 1:1000

2F PLAN 1:1000

1F PLAN 1:1000